

日本の元気と女性の力 ～この閉塞感を打ち破る～

8月31日(土)、松山市立子規記念博物館 名誉館長 天野祐吉さんをお迎えして、男女共同参画公開講座を開催しました。

豊かなご経験に基づいたお話をユーモアを交えながらお話してくださり、参加者の皆さんそれぞれが「男女共同参画」について改めて考える機会になりました。

講師

松山市立子規記念博物館 名誉館長

天野 祐吉 さん

◆プロフィール◆



松山南高校卒業生。博報堂などを経て独立、1979年に「広告批評」を創刊。同誌の編集長・発行人を経て、現在は朝日新聞「CM天気図」等のコラムニストとして活躍。

2002年11月、松山市立子規記念博物館 館長に就任。2007年4月から同館 名誉館長。

「日本の元気と女性の力～この閉塞感を打ち破る～」と題して、松山市立子規記念博物館 名誉館長 天野祐吉さんにご講演いただきました。

成長の限界を迎えてなお、成長のための成長が求められている現代の社会を変えていくには、男性中心の経済成長システムにあまり慣れていない女性の方が良いのでは、と語られた天野さん。

女性ならではの視点や感覚、生活の知恵を生かすことで、新しい社会をつくっていけるのではないかというお話に、「“成長のための成長を求めている”今の社会を冷静になって考えてみたいと思いました。そして感受性を豊かにしたい。(60代・女性)」、「ほっこりした気持ちになった。(50代・女性)」、「笑いの中からたくさんの素敵な言葉をいただきました。ありがとうございました。(60代・女性)」、「心がほぐれました。その上、少し未来に虹がかかりました。(60代・男性)」、「素晴らしい時間をありがとうございました。ユーモアと優しい言葉は心にしみる。(70代以上・女性)」など、たくさんのご感想をいただきました。

アンケートより

女性がさまざまな分野で活躍するためには、どんなことが必要だと思いましたか？

社会の根本を変えていくことも、もちろん必要ですが、今すぐに無理やりにするのではなく、長い目でやっていくこと。「社会を変える」という視点ではなく、女性の感性を生かしていくには、反映していくには？ということを考えてみたいと思った。(20代・女性)

男性と同じようにとか、負けないようにとかではなく、女性だからこそその男性にならない感覚や特性を活用する。(40代・女性)

女性の能力を尊重していく社会づくりをしていくには、教育が大切。(50代・女性)

母の感性で人と接し、笑顔を広げていくことでしょうか。“はぐくむ”ことは素晴らしい、まずは家族、友人、近所の人とのつながりを見直してみようと思いました。(50代・女性)

今、日本の閉塞感を打ち破るためには、まずは自分の身近なところから、家庭、友達との関係を見直すことが大事だと思います。言葉が人間関係をつなぐ潤滑油だと、言葉を選んで大事に使いたいと思いました。(50代・女性)

男性の意識改革。(50代・男性)

男女というジェンダーを捨て、一人の人間として生かし合い、助け合い、柔軟な生き方の大切さを知り、次の世代に伝えていく。(60代・女性)

今一度、自分の住んでいる土地の良いところを見直して活躍することを考える。女性の感覚が大事。(70代以上・女性)

お互いに、女性も男性も良いところを認め合いながら助け合うことが必要だと思いました。(70代以上・女性)

真の男女平等を推し進めること。(70代以上・男性)



今回の男女共同参画公開講座には、112名の方にご来場いただきました。本当にありがとうございました。